

今回のテーマは【難聴児支援】

先日、「難聴児の切れ目ない支援体制の構築と更なる支援の推進に向けた全国研修会」という支援部のオンライン研修会がありました。

保護者の皆さんや先生方と共有したいこと、再確認したいことをいくつか載せたいと思います。

難聴乳幼児との話し方の基本的なスキル

- ① 子どもの前から話しかけていますか？
- ② 子どもの目の高さで話しかけていますか？
- ③ 子どもの注意があなたに向いているときに話しかけていますか？
- ④ あなたの顔が光を背にしない位置で話していますか？
- ⑤ 子どもが「自分の話があなたにうまく通じなかった」と落胆させないような対応をしていますか？
- ⑥ 繰り返したくさん話しかけていますか？
- ⑦ 目の前の物事をことばに置き換えてあげていますか？



これらをしっかり行うことで、互いのコミュニケーション関係や言語力の伸長に確実な成果が表れます。

しかし、これらのルールをいつまでも守っていると、ある年齢になると順調な発達が見られなくなるのです。子どもの発達変化に即して一つ一つの留意事項を取り外し、受け身スタイルから能動的な学びへと移行していかなければなりません。

難聴児が聴き取り能力とコミュニケーション能力を高めるために、次のような手立てがあります。幼児期の指導から、その先にある目標として見据えておくとうよいでしょう。

1) 話し手と周囲の状況をよく見ること。

- ・話し手や周囲の状況から得られる視覚情報をコミュニケーションの手掛かりとして活用する姿勢。

2) 何が話題なのかを知ること。

- ・その場で尋ねて教えてもらえる友人などがそばにいる環境を用意することなど。



3) 話し手にはっきりと話すように頼むこと。

4) 話し手がだれなのかが分かろうとすること。

- ・特に、会議などでは指名された人だけが話すというルールを知り、聴覚と視覚で発言者を追うこと。

5) 聞き逃しや聞き間違いを修正していくこと。

- ・キーワードや重要なフレーズを聞き逃した場合、会話の流れを妨げない程度にそれを確認すること。

6) 話し手に対して積極的に反応を示すこと。

- ・頻繁に相づちや表情などのレスポンスを示すことで、話し手はどのように話せば相手に伝わるかを自然に学習することになる。



7) 聞きやすい見やすい環境を選ぶこと。

8) 問題を見出しその解決に向けて相談できるキーパーソンの協力を得ること。

- ・家族や親しい友人、耳鼻科医、ST、担任など、忌憚なく課題の解決に向けて話し合えるキーパーソンを見つけること。